

Infomation

NEWS 九州産業大学とのコラボで卒業記念品「名刺入れ」の製作を行っています

6月に、九州産業大学芸術工学部・青木研究室の学生とカレッジの学生による合同プロジェクトチームが立ち上がり、卒業記念品「名刺入れ」のデザインについて検討を重ねてきました。名刺入れプロジェクトは九州産業大学において、「卒業記念品を地域の伝統工芸で」ということで2016年度からスタートしたものです。6月7日には大学関係者に16デザインについてプレゼンテーションを行い、本校研究生である村上里桜の提案がデザインとして採用されました。名刺入れは3月の卒業式において全卒業生(約2,600名)に記念品として授与されます。実際の製作にはこれからメーカーさんに協力いただきながら、生地製作、縫製など様々な工程を経て、最終製品に仕上げていくこととなります。どんな名刺入れとなるか、どうぞ楽しみに。



3年ぶりの交流会で親交を深めました。

3年ぶりの博多祇園山笠の山の疾走で賑わう博多の町。カレッジでも7月13日、3年ぶりの研修生、卒業生、先生方の交流会を開催しました。開催場所は、レイアウト変更でカレッジ1階に生まれたオープンスペース。コロナ禍で少人数での開催となりましたが、クラシック音楽ユニット「こへまるくらぶ」の生演奏もあり、楽しくにぎやかな時間を過ごしました。



大好評の博多つくりベデザインコンクール 2022年も開催予定!

福岡県内の高校生を対象に、博多織に新しい新風を巻き込む図案を募集する博多つくりベデザインコンクール。2021年度は、県内10校から606点の応募があり大変賑わいました。今年も高校生を対象に募集中! 審査の様様や、入選作品は随時ホームページ、SNS等でご紹介していきます。



第22回の優秀賞を受賞した「あまおうの幸せ」

入賞・入選 情報

第68回 日本伝統工芸展 (2021年度) 染織部門
入選 盛 かおる (4期生)

第55回 西部伝統工芸展 (2021年度) 染織部門
入選 秋澤 ゆずか (9期) 荒木 希代 (3期)
西田 由紀 (13期) 盛 かおる (4期)

第76回 福岡県美術展覧会 (県展) (2021年度) 工芸部門
入選 田中 彩香 (14期) 秋澤 ゆずか (9期)
間 明日香 (14期) 鍵本 透子 (13期)
城戸 那菜子 (12期)

第53回 福岡市美術展 (2021年度) 工芸部門
入賞 研究科1名
入選 本科3名、研究科1名、卒業生1名

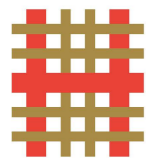
第56回 西部伝統工芸展 (2022年度) 染織部門
入選 用と美の部 盛 かおる (4期)
入選 自由作品の部 秋澤 ゆずか (9期)
盛 かおる (4期)

学校運営スタッフ

教頭 坂口 光一 教務主任 西 智子 講師 大谷 雅志
事務局長 斉藤 政雄 事務局次長 山崎龍太郎

•WANTED•

博多織DC 17期生募集中 詳しくは、メール又はお電話でお問い合わせください。
TEL:092-472-5102 FAX:092-472-5103 Email:hakataori@forest.ocn.ne.jp (担当:山崎)



博多織 DC

本誌の内容に関してのご意見、ご感想等はこちらまで!

情報誌 おりおり便 発行日/2020年8月25日
編集・発行/博特定非営利活動法人 博多織DC
〒812-0014 福岡市博多区比恵町20番19号
TEL.092-472-5102 FAX.092-472-5103
<https://www.hakataoridc.or.jp>



博多織の未来を見守る賛助会員募集中 詳しくはホームページをご覧ください。

コトコト織ってコツコツ学んでドンドン伝える

おりおり便

vol.20
2022 Summer
博多織 DC

福岡県立美術館において卒展「HAKATAORI 2022」を開催しました

中心となったのは本科卒業生(4人)ですが、作品展示にとどまらず、作品を使いそれぞれの世界観が見事に表現・展示されました。来場者の皆さん(一般市民、業界関係者)からたくさんの評価やアドバイスをいただきました。本科卒業生の作品と将来の抱負を紹介いたします。

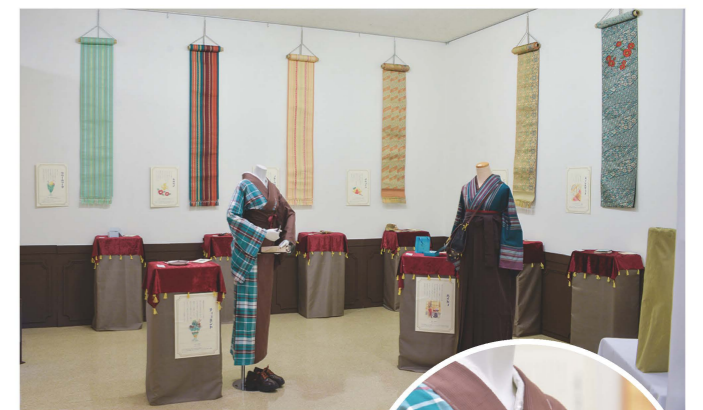
2022年
2月15日(火)
~20日(日)



私の理想のレトロ喫茶

間 明日香

今回、卒業作品展を開催させて頂くにあたり帯、着尺はもちろん壁や看板等、展示小物にまでこだわって作り込み、自分の理想を詰め込んだ喫茶店を表現いたしました。帯や着尺で時代感や喫茶店のメニューを表現することは苦勞しましたが自分なりの表現で納得のいく作品を皆様に見て頂くことができたと思います。来場して頂いた方からも、ご年配の方からは昔の喫茶店のこと、若い方からは新しく可愛い等など老若男女問わず様々なお言葉を直接頂くことができ、とても良い経験となりました。準備段階でも会場選び、様々な業者の方とのやり取り等、役割がそれぞれあり、皆経験のない事ばかりで不安もありましたが、14期生はもちろん、研究生、15期生、先生方等沢山の方にご協力頂き、かけがえのない卒業作品展となりました。今回の経験を今後の活動にも活かしていけるよう精進いたします。



私らしい博多織、花と、刺繍と、和裁。 村上 里桜

ひとつひとつの帯や着物に花をあしらひ、ずっと興味のあった刺繍と和裁を取り入れました。私の名前に入っている「桜」を軸にしたら桜のような飾りを天井から吊り下げたり、手前の障子風の仕切にはこれから個人作家として活動していくために必要なロゴを作成し印刷してみたり、ただ作品を展示するだけではなく空間づくりに力を入れました。また、和裁に触れていただきたいという思いで、展示期間中はワークショップをしました。折り紙で簡単に着物を作ろう!という内容で、老若男女問わず楽しんでいただけたかと思います。空間、ロゴ、コンセプト、リーフレット、ワークショップ…二年間の集大成をすべて詰め込み、「私らしい博多織」を表現することができたと思います。

卒業したあとは研究科生として一年間学校に所属し、これからの活動の準備をしながら着尺を中心とした新たな作品づくりに力を入れていきたいと思っています。



幾何学模様の平地作品に挑戦 外池 華那

紵余曲折しながら博多織の平地の図案を考案しました。幾何学模様という作品に挑戦しました。織り始めると縦の柄が詰まった様に仕上がりに、思う様に帯が出来ず織物の難しさを感じました。初めは研究科への進学は考えていませんでした。企業への就職を探していました。卒展が終わってもう少し帯について学ぶことができると感じ、綺麗な帯がおれる準備をしました。それで、研究科に残って手織りの帯を製作しています。今一度平織りの勉強を始めています。ジャガードがが上手く動かなかったり、糸が切れたりといろんなトラブルがおきたり苦労していますが、それに負けずに頑張っています。



過去と現在をつなぐ「記憶」 田中 彩香

日々、周囲の人や周囲の環境に目を向けて今を必死に生きている人に「少し立ち止まって、自分自身に目を向けてみませんか」と伝えたい。そんな想いから生まれた展示でした。自身の経験から、現在の苦しみや辛さを救うのは自分自身の記憶であると考えました。奇しくも2年の在学期間はコロナ禍の真っ只中であり、今求められているものは「今を生きる原動力をどこから探すか」にあると感じ、迷いなく制作に取り組みました。

展示には私の「記憶」を基にした作品とそれに纏わる詩を制作しました。滅多に経験できない公共の場を使った展示には緊張しましたが良い勉強になりました。

現在、私は西村織物株式会社に勤めています。周りにはベテランの従業員、伝統工芸士の方ばかり。将来は独立の目標があるため、歴史ある会社で日々勉強を兼ね仕事ができる事は大変な難しいです。良いものを作り続けられるよう、これからも邁進して参ります。



お菓子屋さんのアート・スペースを使った 研究科卒業生の作品展が開催されました 西山 貴世子 作品展

『3年間の集大成』

39年間勤務した地元企業を早期定年退職し、2019年4月から2022年3月までの3年間を博多織デベロップメントカレッジにお世話になりました。「実行に移すのであれば50代で」そう決意しひたすら機に向かいました。帯27本、着尺4反が3年間の成果です。求評会や卒業作品展など作品を展示する機会はありませんでしたが、コロナ禍での開催となりご案内もままならない状況でした。地元熊本の友人や知人にも手織りの製織作品をご覧いただきたく、2022年6月2日から8日まで【お菓子の香梅】様ドゥ・アート・スペースをお借りして作品展を開催いたしました。多くの皆様方にご来場賜り、熊本では余り馴染みのない『博多織』を知っていただく良い機会となりました。また、お客様からの温かいお声かけや様々なご感想は、今後の励みとなりますとともに、大変有意義な時間となりました。開催にあたりましてご協力いただきました博多織DCの関係者各位をはじめ、友人や家族に感謝申し上げます。

カレッジに10代研修生(1年生)の元気な声が響いています 16期生 3人研修スタート

充実した毎日 中原 希

小さいころに、祖母から浴衣を着せてもらったのをきっかけに和服が好きになり、小学生の時に博多織を知りました。その時から職人になりたいと思っていました。中学の時に母からこの学校の存在を知り、ここに行きたいと思いました。そのために、高校でデザインの勉強を頑張ってきました。学校に入ってから、織りやデザイン以外にもたくさんの授業があってとても楽しいです。課題がでた時は学校の休憩時間や家でやったりと、なんとか時間を作って終わらせることがあって大変な時もあります。この頑張りを生かして帯を織ってみたいです。



わたしのなりたい将来 光成 七海

私は母の影響で幼い頃から着物に触れて育ち、着物にかかわる仕事をしたいと考えるようになりました。ですが着物に関わる仕事には一体何があるのか、どんな仕事なのかわかりませんでした。そのときに知り合いの呉服屋の方にこのカレッジのことを教えていただきました。ここに入ってから、今まで知らなかった博多織の魅力を知り、また織っている職人さんたちに感謝の気持ち、そして尊敬の気持ちが湧きました。私はここでたくさんを学び、博多織の魅力をたくさんの方に知ってもらえるよう努力していきたいです。

博多織で洋服をつくりたい 高尾 胡乃葉

高校では服飾を専攻していました。ファッションショーの材料を買いに東京の日暮里にクラスのみんなで行き。その時に今まで見たことのないような生地が沢山並んでいるのを見て、テキストに興味を持ちました。また、幼い頃に見た大河ドラマの影響でずっと着物が好きだったこともあり、日本の伝統ある織物について学ぶことのできる博多織の学校に来ました。今は博多織について学び高校で学んだ服飾の技術を活かし、博多織を使用した洋服を製作することを目標に頑張っています。